第３章
具体的な施策展開

１．基本理念

本区ではこれまで区民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽に「する」、「みる」、「支える」スポーツに親しめるよう環境整備に取り組んできました。こうしたスポーツ環境とともに東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用しながら伝統的に受け継がれてきた下町人情や発展を続ける臨海部など区の魅力・強みを生かし、基本理念を以下のとおり掲げ、今後の江東区のスポーツ施策を推進していきます。

「スポーツが熱いまち　江東区」

区民の誰もが、身近な場所で気軽にスポーツに親しみ、
活気あふれる地域社会を実現します。

２．数値目標

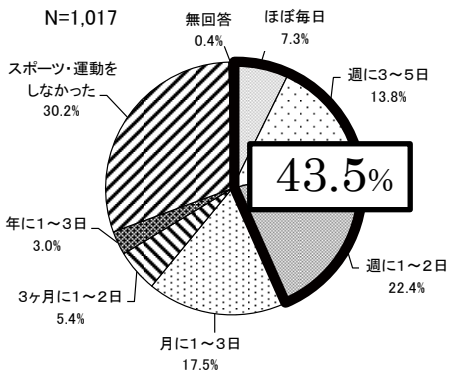
区民の誰もが継続してスポーツ※3に親しむことができる生涯スポーツ社会を実現※4するため、本計画では数値目標を以下のとおり設定します。

成人の週１回以上のスポーツ実施率を、概ね５年間で

６５％程度（３人に２人）とすることを目指します。

◆週１回以上のスポーツ実施率

現状値



→

目標値

65%

※3　（参考）ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技スポーツだけでなく、散歩や体操などの体を動かすことを意識して行う運動も今後は「スポーツ」として広く捉えることとします。

※4　（参考）令和元年度のアンケート調査結果によると週１回以上スポーツを実施したいと考えている区民の割合は 79.5%となっています。

３．基本目標

計画の課題と対応の考え方をふまえ、本計画の基本目標を以下の４つに整理しました。

1 スポーツに親しむきっかけづくりの拡充

2 スポーツをより身近に感じられる環境の充実

3 スポーツに関わる人材・組織の育成と連携・協働の取組の推進

4 スポーツを通した地域コミュニティの活性化

４．施策の体系

【基本理念】

スポーツが熱いまち　江東区

【基本目標】	【施策展開】	【主な取組の内容】
1 スポーツに親しむきっかけづくりの拡充	1-1 スポーツを気軽に楽しめる機会の創出	①こどものスポーツ推進 ②働き盛り・子育て世代のスポーツ推進 ③高齢者のスポーツ推進 ④障害者のスポーツ推進
	1-2 スポーツを通した心身の健康づくり	①気軽に取り組めるスポーツによる健康づくり ②スポーツを通したこどもの健全育成 ③高齢者や障害者向けのスポーツによる健康づくり
	1-3 東京 2020 オリンピック・パラリンピックレガシーの活用	①競技施設等との連携 ②障害者のスポーツ環境の充実 ③トップアスリートに触れる機会の充実
2 スポーツをより身近に感じられる環境の充実	2-1 「する」スポーツ環境の充実	①身近な場所でのスポーツ環境の整備 ②ユニバーサルデザインを取り入れた施設の整備 ③計画的な施設改修
	2-2 豊かな水辺を生かしたスポーツの推進	①水辺のスポーツに親しめる環境の整備 ②競技施設を生かしたイベントの実施 ③水辺のスポーツ大会等の実施 ④水辺のスポーツ事業の展開
	2-3 効果的な情報発信	①多様な媒体を活用した情報発信 ②身近な場所での情報発信
3 スポーツに関わる人材・組織の育成と連携・協働の取組の推進	3-1 スポーツを支える人材・組織の育成	①スポーツを支える人材の育成・確保 ②スポーツを支える団体等への支援 ③人材・団体等の表彰
	3-2 スポーツを支える人材・組織との連携・協働	①スポーツを支える人材・団体間の連携・協働 ②地域貢献につながるスポーツ事業の実施
	3-3 トップスポーツチーム・トップアスリートとの連携強化	①スポーツへの関心喚起 ②競技力向上の取組 ③地域交流の促進
4 スポーツを通した地域コミュニティの活性化	4-1 スポーツを通した交流の促進	①スポーツを通した交流イベント等の開催 ②障害者のスポーツ実施に対する理解促進
	4-2 地域・学校・事業者間の連携強化	①地域団体と連携したスポーツイベントの実施 ②区内事業者との連携強化
	4-3 「みる」・「支える」スポーツ環境の充実	①スポーツを通した地域の活性化 ②ボランティア活動の促進

基本目標 1　スポーツに親しむきっかけづくりの拡充

年齢や性別、障害の有無に関わらず、また、ライフステージ、関心の度合い等に応じて、気軽にスポーツに取り組める機会を充実していきます。

また、健康づくりや東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承、区民のスポーツに対する意識の改革など、様々な視点でスポーツに参加するきっかけを充実していきます。

施策展開１．スポーツを気軽に楽しめる機会の創出

年齢や性別、障害の有無に関わらず、ライフステージや関心の度合いに応じて、区民の誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる機会を創出していきます。

主な取組	取組内容
こどものスポーツ推進	こどもたちがスポーツを好きになり、楽しむきっかけをつくるとともに体力・運動能力の向上に取り組みます。
働き盛り・子育て世代のスポーツ推進	働き盛り・子育て世代が気軽にスポーツを楽しめる機会を提供します。
高齢者のスポーツ推進	高齢者が気軽に体を動かせるスポーツの機会を提供します。
障害者のスポーツ推進	障害者が気軽にスポーツを楽しめる機会を提供します。

ラグビー体験(「ファミリースポーツチャレンジ」)

施策展開２．スポーツを通した心身の健康づくり

区民の誰もが、スポーツを通して心身の健康を保持・増進するための取組を推進していきます。

主な取組	取組内容
気軽に取り組めるスポーツによる健康づくり	生活習慣病予防等にも効果的なウォーキング等、気軽に取り組めるスポーツによる健康づくりを促進します。
スポーツを通したこどもの健全育成	スポーツを通したこどもの心身の健全育成に向けて、スポーツ関係団体が実施する事業を支援していきます。
高齢者や障害者向けのスポーツによる健康づくり	健康づくりや介護予防の必要性の周知、スポーツ習慣の定着に向けた取組を進めます。

シニアウォーキング（「ノルディックウォーキング教室」）

施策展開３．東京 2020 オリンピック・パラリンピックレガシーの活用

江東区が会場の東京 2020 オリンピック・パラリンピックの競技施設等を活用し、よりスポーツしやすい環境を整備していきます。

主な取組	取組内容
競技施設等との連携	オリンピック・パラリンピック競技施設と連携し、区民が多様なスポーツに取り組める環境を整えます。
障害者のスポーツ環境の充実	誰もが障害者スポーツを理解し、障害者がスポーツに取り組みやすい環境整備を進めます。
トップアスリートに触れる機会の充実	トップアスリートのパフォーマンスを身近に見られる機会を提供し、スポーツへの関心を高めます。

基本目標 2　スポーツをより身近に感じられる環境の充実

生活に身近な場所で、区民の誰もが安全・安心、気軽にスポーツができる環境を充実していきます。また、区内にある多数の河川や運河など、豊かな水辺環境を生かしたスポーツ振興に力を入れていきます。

気軽にスポーツに参加できるよう、施設の利用案内や教室・イベント等の情報を効果的に発信し、より多くの区民に多様な手段で情報を届けていきます。

施策展開１.「する」スポーツ環境の充実

多様な区民ニーズに対応するとともに、区民がいつでも身近にスポーツに取り組めるよう、施設改修等を行っていきます。また、スポーツ施設以外でも、より生活に身近な場所でスポーツに親しめる環境を充実させていきます。

主な取組	取組内容
身近な場所でのスポーツ環境の整備	近くの公園や学校の体育館など、生活に身近な場所で気軽にスポーツに親しめるよう、環境整備を進めます。
ユニバーサルデザインを取り入れた施設の整備	誰もがより一層スポーツに取り組みやすいユニバーサルデザインを取り入れた施設整備を進めます。
計画的な施設改修	施設の老朽化や社会環境の変化を踏まえ、江東区長期計画に基づく計画的な施設改修を実施します。

公園運動器具（「東砂八丁目公園」）

施策展開 2．豊かな水辺を生かしたスポーツの推進

河川や運河など、“水彩都市・江東”として豊かな水辺環境を生かしたスポーツを推進していきます。また、オリンピック・パラリンピック競技施設をレガシーとして活用し、水辺のスポーツの普及振興に取り組んでいきます。

主な取組	取組内容
水辺のスポーツに親しめる環境の整備	江東区の内部河川等を活用し、誰もが水辺のスポーツに親しめる環境整備を進めます。
競技施設を生かしたイベントの実施	海の森水上競技場を活用したカヌー競技等を体験できるイベントの実施に取り組みます。
水辺のスポーツ大会等の実施	カヌー大会等を開催し、水辺のスポーツの普及振興を図ります。
水辺のスポーツ事業の展開	関係団体と協力・連携し、“水彩都市・江東”を象徴するような事業を展開します。

カヌーイベント

施策展開３．効果的な情報発信

区民の誰もが生活に身近な場所でスポーツに親しむために、情報格差が極力生じることのないよう多様な媒体・手段を用いてスポーツに関する情報を提供していきます。

主な取組	取組内容
多様な媒体を活用した情報発信	区報やホームページ、ＣＡＴＶ、ＳＮＳ等の媒体を活用し、迅速かつ効果的にスポーツ情報を発信します。
身近な場所での情報発信	区立スポーツ施設内の情報コーナーをより充実させるなど、電子情報以外でも効果的に情報提供を行います。

基本目標３　スポーツに関わる人材・組織の育成と連携・協働の取組の推進

区民のスポーツを支える人材・組織の育成を支援していくとともに、関係者間の連携・協働の取組を促進し、支える人材・組織の活躍の場を充実していきます。

また、トップスポーツチーム・アスリートと連携し、区民のスポーツへの関心喚起に取り組むとともに、指導技術の向上にも取り組んでいきます。

施策展開１．スポーツを支える人材・組織の育成

イベントの運営や競技のサポートなどを行うスポーツボランティアだけでなく、監督、コーチ、インストラクターなどの指導者、競技団体や普及活動に携わる団体等もスポーツを支える重要な存在です。スポーツの様々な場面を支える人材を育成し、受け皿となる組織の体制強化に取り組んでいきます。

主な取組	取組内容
スポーツを支える人材の育成・確保	障がい者スポーツ指導員をはじめ各種スポーツ指導員の資格取得の支援などスポーツの現場を支える人材の育成・確保に取り組みます。また、研修等を通して指導者の資質向上にも取り組みます。
スポーツを支える団体等への支援	総合型地域スポーツクラブなど、スポーツの普及・振興に携わる団体の活動を支援します。
人材・団体等の表彰	スポーツの普及・振興に寄与した人材や団体に対し、功績を称える表彰を行います。

【コラム３】障がい者スポーツ指導員

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が、障がい者のスポーツの普及と発展を目指し、障がい者のスポーツ環境を構築する上で必要な人材の養成並びに資質向上を図るために認定した指導者のことです。

初級・中級・上級の３レベルがあり、各レベルの講習を修了することで認定されます。

施策展開２．スポーツを支える人材・組織との連携・協働

スポーツボランティアや競技団体等のほか、企業や大学、地域団体等もスポーツを支える役割を担っています。これらの人材・組織と連携・協働することにより、スポーツを支える活動や支援を促進し、スポーツの裾野の拡大を図っていきます。

主な取組	取組内容
スポーツを支える人材・団体間の連携・協働	大学や地域団体等のスポーツ関係者が連携・協働した事業の実施、企業の地域貢献活動と連携した取組を促進します。
地域貢献につながるスポーツ事業の実施	ふるさと納税や協賛金などを活用し、地域貢献につながるスポーツ事業を実施します。

施策展開３．トップスポーツチーム・トップアスリートとの連携強化

トップスポーツチームやトップアスリートと連携・協働し、スポーツに関心を持つ区民を増やしていくとともに、競技力の向上につなげるための連携を強化していきます。

主な取組	取組内容
スポーツへの関心喚起	トップアスリートの招聘等、スポーツに関心のない層にも関心を持ってもらえる取組を進めます。
競技力向上の取組	トップアスリートから指導が受けられるスポーツイベントや教室事業を実施し、競技力の向上を図ります。
地域交流の促進	地元プロスポーツチームや企業チーム等と連携し、地域との交流活動を通して地域活力の向上につなげます。

江東区出身のオリンピアン梶山陽平氏（FC 東京）による授業（「東陽小学校」）

基本目標 4　スポーツを通した地域コミュニティの活性化

スポーツを通して世代間・地域間の交流を促進し、地域コミュニティの活性化に取り組んでいきます。また、地域・学校・事業者で連携したスポーツ推進、誰もが一緒にスポーツを楽しむきっかけづくりなど、共生社会の実現に向けた取組も推進していきます。

施策展開１．スポーツを通した交流の促進

スポーツをする・みる・支える視点から、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、スポーツを通した交流から互いを理解し、尊重する共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。

主な取組	取組内容
スポーツを通した交流イベント等の開催	年齢や障害の有無に関わらず、誰もが一緒に楽しめるスポーツイベントを実施します。
障害者のスポーツ実施に対する理解促進	パラリンピック競技等、障害者スポーツの体験事業等を通して、障害への理解促進につなげます。

車いすラグビー（「障害者スポーツフェスタこうとう」）

施策展開２．地域・学校・事業者間の連携強化

活動目的がスポーツとは異なる団体等との連携を強化し、多様なアプローチからスポーツの可能性を引き出し、地域の活性化につなげていきます。

主な取組	取組内容
地域団体と連携したスポーツイベントの実施	町会・自治会、学校等、地域に密着した団体と連携したスポーツイベントを開催します。
区内事業者との連携強化	スポーツイベントや教室事業等で、地元企業やトッププロチーム等との連携を積極的に図ります。

施策展開 3.「みる」・「支える」スポーツ環境の充実

トップスポーツチームやトップアスリートと連携し、スポーツに関心をもつ区民を増やしていくとともに、まちの魅力向上や活性化といった地域づくりにつなげていきます。また、スポーツイベントにおけるボランティアの募集・活用など、スポーツを支える活動の場を提供していきます。

主な取組	取組内容
スポーツを通した地域の活性化	トップスポーツチームやトップアスリートによる地域との触れ合いや観戦機会の提供等を通して、地域の魅力づくりなどスポーツによる地域の活性化を図ります。
ボランティア活動の促進	区が実施するスポーツイベント等で、ボランティアを募集し積極的な活用を図るなど、ボランティアのしやすい環境づくりを促進します。

ラグビー トップリーグ試合観戦

【コラム４】アーバンスポーツ

「アーバンスポーツ」とは、ＢＭＸ、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンス等の都市型スポーツのことを指します。

日本では広島県において、「FISE Hiroshima 2018」というアーバンスポーツの世界大会が2018年に開催されました。同大会の開催を機にアーバンスポーツ普及促進と東京2020オリンピック･パラリンピック競技大会の機運醸成という二つの目標を掲げた「一般社団法人 日本アーバンスポーツ支援協議会」が発足し、アーバンスポーツの価値向上、青少年の健全育成や国民の健康増進の取組が進められています。

FISE：フランス語のFestival International du Sport Extremeを略した名称で、国際的な都市型スポーツのフェスティバル。1997年にフランス南部モンペリエで、エクストリーム・スポーツに情熱を持つ学生であった創立者・エルベー・アンドレ-ブノワ(Hervé André-Benoit)によって始められたスポーツ大会。

【コラム５】ｅスポーツ

「ｅスポーツ」とは、エレクトロニック・スポーツの略で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使って対戦する競技のことを指します。

格闘ゲーム、シューティングゲーム、パズルゲームなどがあり、近年、世界的にも大きな盛り上がりを見せています。

日本国内においては2019年の「いきいき茨城ゆめ国体（国民体育大会)」で、競技種目ではなく、文化プログラムの一環として、ｅスポーツ大会「全国都道府県対抗ｅスポーツ選手権2019 IBARAKI」が開催されました。

【コラム６】トップスポーツチーム、リーグによる社会貢献

近年、国の方針をはじめ、官民問わずスポーツの持つ力で社会に貢献していく活動への関心が高まっています。世界的に見てもスポーツ業界から環境分野への発信が行われるなど、プロリーグ・クラブ・選手の社会的責任や地域における活動は、社会の変化にともない多様化してきているといえます。

日本においては、日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ)・Ｊクラブが社会課題や共通のテーマ※の解決を目指し、地域の人・企業/団体（営利・非営利問わず)・自治体・学校等と連携して取り組む活動を「シャレン（Ｊリーグの社会連携活動)」と称して活動の幅を広げています。

今後もサッカーだけでなく様々な競技において、トップスポーツチーム、リーグによる社会貢献活動が積極的に行われていくことが期待されています。

※教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など